



9.5ミリフィルム

9.5ミリフィルムが語る90年前の石狩

皆さま、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

最近、いしかり砂丘の風資料館に花畔の齋藤稔さんから戦前に撮影された18本の9.5ミリフィルムが寄贈されました。

齋藤家は1904(明治37)年から1971(昭和46)年まで二代にわたって花畔郵便局の局長を務めました。撮影したのは第二代局長の齋藤茂氏(齋藤稔さんのお父さん)です。

内容は齋藤家の家族の様子のほか正月の初め式や水田用の用水路工事、花川尋常高等小学校のバスケットボールの練習風景もあります。また、チャップリンやロイドの喜劇映画など既製の映画もありました。撮影時期は1928(昭和3)年ごろから1936(昭和11)年ごろまでと見られます。齋藤さんは自作の映像だけでなくチャップリンなどの既製の映画を9.5ミリにしたものも購入し、近所の方々を集めて上映会を開いていたということです。フィルムの最初には「花畔ベビーシネマ倶楽部」あるいは「齋藤小型映画研究会」と入っていますが、このような同好会があったのかもしれない。

9.5ミリフィルムは1922(大正11)年からフランスのパテ社が販売していたもので、「パテベビー」の名称で個人向け専用のカメラ、映写機がありました。パテベビーは世界中に普及し、日本

では1923(大正12)年に輸入が始まり戦争が激しくなる1941(昭和16)年ごろまで全国で流行しました。

パテベビーは個人で撮影ができるものの、カメラと映写機を合わせると現在のお金で100万円以上かかりました。

そのため戦前に個人が撮影した動画は非常に貴重です。

これから分析を進めますが、どれもこれもこれしかないという映像ですので何が分かるか楽しみです。

(工藤義衛)



齋藤茂氏と9.5ミリ映写機



花川尋常高等学校籠球
(バスケットボール)部

動画もチェック!
寄贈された動画の一部を
YouTube
<https://youtu.be/KkmmOaXYccc>
で公開しています。



映写機と撮影用カメラ



齋藤家の人びと



石狩市学芸員
工藤義衛 Tomoe Kudo

専門分野は考古学と風俗史。石狩独特の文化を研究する一環で石狩の食を代表する「石狩鍋」の歴史やルーツについても調査を行う。

図文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711

ERIS「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。